

令和3年度 環境省重点施策 概要

～「3つの移行」による経済社会のリデザイン(再設計)～

- 近年、国内でも豪雨が頻発するなど、世界各地で異常気象が発生。こうした事態に対し、今年6月、環境省は政府として初めて「**気候危機**」を宣言。
- ウィズコロナ・ポストコロナ時代において「**脱炭素社会への移行**」「**循環経済への移行**」「**分散型社会への移行**」という「**3つの移行**」による、持続可能で強靱な経済社会への「**リデザイン(再設計)**」を強力に進めていく。3つの移行は経済社会の「**エンジン**」(競争力の源泉)であり、「**ワクチン**」(地球環境リスクへの予防)である。
- リデザインの重要性は「**Platform for Redesign 2020**」(令和2年9月)で世界各国と認識を共有。ゼロカーボンシティが人口の半数を超える7,000万人に至っており、3つの移行は既に動き出している。3つの移行を具現化する「**地域循環共生圏**」(ローカルSDGs)の創造を、ポストコロナの変化やニーズを梃子に進化させていく。
- 令和3年は東日本大震災から10年。復興・創生に取り組むとともに、**環境省と福島県の連携協力協定**(令和2年8月)に基づき未来志向の取組を推進する。

1. 「3つの移行」による持続可能で強靱な経済社会への「リデザイン(再設計)」

脱炭素社会

- (1) **ゼロカーボンシティ再エネ強化支援パッケージ**
 - ・再エネ最大限導入の計画づくり★、人材育成★
 - ・地域の再エネ主力化に向けた支援
- (2) **「新たな日常」の脱炭素化**
 - ・データセンター等のゼロエミッション化★
 - ・eコマース需要増を支える物流EV化
 - ・住宅やビルの脱炭素・防災・健康維持機能の強化
- (3) **脱炭素イノベーションの加速化**
 - ・環境省初のアワード型R&D★
 - ・ゼロエミ火力★、再エネ由来水素、CCUS推進

循環経済

- (1) **プラスチック資源循環戦略の具体化**
 - ・資源循環の高度化★
 - ・プラスチック代替素材への転換
- (2) **持続可能な廃棄物処理体制構築**
 - ・ICT活用によるごみ収集自動化、次世代型産業廃棄物処理の推進★
- (3) **レジリエントな廃棄物処理**
 - ・災害廃棄物処理計画の改定支援
 - ・一般廃棄物処理施設・浄化槽の整備

分散型社会

- (1) **「気候変動x防災」「適応復興」によるレジリエント化**
 - ・生態系を活かした防災減災
 - ・自立分散レジリエンス導入
 - ・防衛省と連携した離島の再エネ主力化★
 - ・熱中症対策の強化(警戒アラートの全国展開)
- (2) **国立公園の抜本強化**
 - ・国立公園満喫プロジェクトの抜本拡大(8公園限定から全34公園へ)
 - ・ワーケーションなど国立公園からリモートワークができる新たな価値の創造★
- (3) **新たな里地里山里海の創造**
 - ・里山未来拠点の形成★、鳥獣対策の強化、豊かな海の再生

2. 「3つの移行」を支える横断的取組

ESG金融・ナッジ等を活用した社会変革

- (1) ESG金融やその発展形であるインパクトファイナンスの後押し
- (2) 環境スタートアップ支援★、脱炭素経営の後押し
- (3) ナッジの幅広い施策への展開★

環境外交の強化

- (1) 気候変動COP26・生物多様性COP15 (SATOYAMAイニシアティブ)の推進に向けた外交強化
- (2) G20大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの拡大・深化(海ケア対策)
- (3) 脱炭素化原則に基づく環境インフラ輸出

ウィズコロナ・ポストコロナ社会の基盤となる健康と環境を守る取組

- (1) コロナを踏まえた人獣共通感染症対策の強化★
- (2) 動物愛護管理の抜本強化
- (1) 石綿の健康被害判定ICT化★・飛散防止対策、PCB廃棄物処理海ごみ対策、ICPL調査、水俣病対策

3. 東日本大震災からの復興・創生と未来志向の取組

環境再生に向けた取組の着実な実施

- ・中間貯蔵施設の整備
- ・除去土壌の再生利用推進
- ・特定復興再生拠点の整備
- ・放射性物質汚染廃棄物処理

未来志向の復興加速 -希望ある未来へのリデザイン-

- ・脱炭素x復興まちづくり★
- ・滞在型ツアー、ワーケーション★
- ・国立公園満喫プロジェクト